

## 第1分科会「学校・学科の充実の方向性」に関する 各地区部会の意見

### 【本資料について】

第1分科会で取りまとめた「学校・学科の充実の方向性（整理案）【たたき台】」について、12月に開催した各地区部会において、各地区の産業構造や今後育成すべき人財像を考慮しながら、各地区からいただいた意見を「県全体の視点による意見」と「各地区の実情を考慮した意見」に分けた上で、「県全体の視点による意見」は資料3「学校・学科の充実の方向性」に反映し、それ以外の「各地区の実情を考慮した意見」は本資料に記載している。

令和6年2月28日

## 第2 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり

### <各地区の実情を考慮した意見>

#### 【東青地区】

- 青森市の中学生は情報端末等を活用した学習に慣れており、その特長を生かすべき。ICTについては、教員が対応できていない現状があるが、小・中学校では、青森市内でAI型ドリル教材の活用などについて検討していくので、高校においてもICTの活用を進めてほしい。

#### 【西北地区】

- 西北地区において、サテライト教室のようなものを設置し、ICTを活用しながら、他校の授業を受けることができるような環境を整備することで、地域の高校を閉校することなく、生徒のニーズにも対応できるのではないかと。地域によっては、高校がなくなることによって地域の活性化にも大きく影響するため、サテライト教室を設置することで、協力してくれる自治体も出てくると思う。また、サテライト教室には、管理能力がある校長経験者を再任用で配置することで、多様な対応が可能になると考える。これから20年、30年後のことを考えれば、サテライト教室における遠隔授業等を実施していかないと、地域から人がいなくなってしまうのではないかとといった危機感を持っており、そういった新たな制度も含めた仕組みづくりを検討していく必要がある。
- 地域としては、県教育委員会が設定した重点校、拠点校、地域校という指定が普通科を強調しているように聞こえ、総合学科等の各校の魅力を阻害することにつながっているのではないかと危惧している。また、重点校、拠点校、地域校の名称を変更あるいは廃止するべきではないか。

#### 【下北地区】

- 下北地区では、小・中学校へ高校が訪問しているほか、大学との連携等も進んでおり、全校種を挙げて交流等を行いながら県立高校の魅力づくりに取り組んでいくことが必要。
- 大畑地区には高校がなく、高校に通学するには30kmほどの距離があるため、子どもたちは、魅力のある学校に通うというよりも、家庭の負担等を考えて、通学費が安価な高校に通う。スクールバスの金額も値上げしてきており、このままでは、青森市や八戸市等の他地域に進学する生徒が増えていく。このような家庭もあるということを認識した上で、魅力ある高校づくりについて考えていくべき。

### 第3 これからの時代に求められる力を育む学科等の魅力づくり

#### 1 全日制課程

##### <各地区の実情を考慮した意見>

###### 【東青地区】

- 青森市ではねぶたアート等のアートに関する取組が進められようとしているほか、県内に美術館が5つもある地方都市は少ないため、その特長を生かすべきである。これらを踏まえ、県内の美術館で働く人財を地元で育成したり、美術を好きな子どもたちを青森県に呼び込みたい。
- 青森市のホタテ養殖業者の多くが被害にあったほか、陸奥湾における水産業の話題が多く取り上げられているにもかかわらず、東青地区に水産業に関する学科がなく、水産業に関する課題を解決するための人財を育成する場がないことは不安である。

###### 【上北地区】

- 軍人の家族は基地内の学校に無料で通うことができるが、そうでなければ基地内の学校に通うのは高額な学費になる。三沢市にアメリカンスクールがあれば、学費が安い小規模であっても需要があるのではないかと考える。また、全て英語で授業をするような高校が今はないが、そういった経験を与えることで、飛躍的に語学力も伸びると思うので、グローバル関連学科等の設置も含め、検討の余地があると感じる。

###### 【下北地区】

- 下北地区において、令和9年4月の高校入学生は約500人、10年後の令和19年には約300人になる見込みであり、このような状況の中、現在の学科が将来的にベストであるとは限らないことから、学科の組み合わせに関して、もっと柔軟に検討していくことが必要。
- リモート授業等を活用した上で、なお必要な実習等が地域内で履修できる地域で完結できる教育を目指した学科の在り方についての検討が必要。
- 下北地区には、現在のところ商業科、水産科、看護科等がないが、このような学科があれば、そこに進学する生徒もいると考える。
- 子どもたちが下北地区の高校にない学科を希望する場合には、下宿等に入り他地区の高校に通学するような状況であるため、現在設置されていない学科の新設は必要であると考えられる。

###### 【三八地区】

- 八戸市では、STEAM教育の推進のため、海洋開発研究機構（JAMSTEC）と連携しながら、教材開発に取り組んでいる。八戸市内の小・中学校においても、この教材を活用しながら、海洋教育に取り組んでおり、こうした取組が高校や大学まで途切れることなく繋がってほしいと考える。八戸工業大学では、STEAM教育を核にした講座を開設しているため、小学校から大学までの接続がスムーズになるよう、八戸水産高校に海洋教育や海洋科学といった視点を持った学科があればよい。

## 2 定時制課程 3 通信制課程

### <各地区の実情を考慮した意見>

#### 【西北地区】

- 西北地区では、私立高校の通信制やアシストクラスを希望する子どもたちが多くなってきているように感じており、今後、西北地区の県立高校としても、多様な生徒を受け入れる環境を整備する必要がある。

#### 【上北地区】

- 中学校には不登校傾向の生徒もおり、そういった生徒が高校進学を目指す際に、定時制・通信制課程が大事な役割を果たしている。本校でも、別室登校であった生徒が三沢高校の定時制課程へ進学し、様々な体験をしながら、今は登校できているといった事例が多く見られ、定時制課程の必要性を感じるため、上北地区に定時制高校も残してほしい。
- 現在、上北地区には通信制課程がないが、現在の設置校のみでも何とかやれており、上北地区への設置は少子化の現状を考えると難しい。

#### 【下北地区】

- 以前は、勤労学生や学力が低い生徒が主に入学していたが、現在は、中学校時代に不登校だった生徒が多い。入学理由としては高校卒業の資格を取りたいというのが多い。普通科や専門学科とは別に、教育の一つの居場所として、下北地区には定時制課程は必要。
- 定時制課程の課題は、編入生が修得科目によって、通常であれば2年で卒業できるところ3～4年かかってしまうところにあるが、カリキュラム上難しい部分もあるため、下北地区に通信制課程の高校があってもよいと考える。

## 第4 学校・学科の魅力づくりに向けた教育制度

### <各地区の実情を考慮した意見>

#### 【上北地区】

- 少子化により、倍率は下がってきているものの、附属中学校は保護者や生徒のニーズは大変高く、継続しての存続をお願いしたい。

#### 【下北地区】

- 下北地区は、地域完結性が求められると考えていることから、少ない学級数で様々な科目を学ぶことができ、大学科を超えた学びが可能となる総合選択制を導入してほしい。

＜各地区の実情を考慮した意見＞

【東青地区】

- 東青地区において、職業学科や総合学科の配置は妥当だと思う。
- 中学生は、県立高校の看護科を志望する場合、黒石高校への進学しか選択肢がない。県立中央病院と青森市民病院の統合により、医療の面でも青森市が中心になっていく動きがある中、新設される病院の近くに看護科や、薬学系の大学進学を見据えた学科を有する高校を配置してもよいと考える。

【中南地区】

- 中南地区の基幹産業は農業、工業、観光であり、中南地区の高校は、そのほとんどをカバーしている。
- 通学の利便性を理由に二の足を踏む中学生もいるため、通学利便性についても検討が必要。

【上北地区】

- 上北地区にある高校はいずれも重要であると思うが、現状からみて、縮小・統合はやむを得ないことから、分校化や夏期・冬期休業を利用した短期集中講座によって共通科目の統合を図ることで、教育機会は維持しつつ、費用は抑えてほしい。
- 上北地区はエリアが広く、通学費等の面で、通学が難しくなってしまうことがあるため、上北地区にある工業、農業、商業高校をなくさないでほしい。

【下北地区】

- 下北地区から学校がなくなることは非常に大きなこと。学校がなくなるということは、学校と地域とのコミュニケーションがとれなくなることや地域の人にとっての憩いの場がなくなるということであり、教育だけの話ではなく、経済や文化の衰退等に繋がっていく可能性がある。そう考えると、小規模校を残していくということもこれから考えていく必要がある。
- 子どもが減っている状況であるからといって、学校をなくすのではなく、ICTの活用や通学支援など様々な部分を組み合わせてアイデアを出す必要がある。下北地区は課題の最先端だと思うので、様々なことを試すには向いている地域であり、チャレンジしていけば新たな形が見えると思う。
- 10年後、20年後を見据えたときに、生徒数が減少していく中で、新設校を設置しても入学者がいなければもったいない。建設・解体に係る費用があるのであれば、田名部高校に集約すればよいのではないかと考える。そうすれば、路線バス等があるので通学費を抑制できると考える。